

2023 年度公益社団法人小さいのちのドア事業計画

2023 年度基本方針

当法人は、思いがけない妊娠や育児が困難で育てることが出来ない女性と小さいのちを守るために、2018 年に 24 時間体制の妊娠相談窓口を設置し、電話、メール、SNS、来所にて相談に応じている。また行き場がなく、誰にも頼ることが出来ない妊産婦のためのマタニティーホームを 2020 年建築した。開所当日から入居者は途切れたことなく、これまでに 36 名の母子の命を守ってきた。相談の件数は月に約 1500 件、未受診でかつ陣痛がおこってからの相談、また未受診でかつ産んでしまったという危機迫る相談も約隔月に受けている。今の所全て命は守ってきた。

開設当初はこのような 24 時間妊娠相談も妊産婦の生活支援も日本に制度がなかったが、24 時間相談は 2020 年 9 月に、妊産婦の生活自立支援は 2022 年 6 月に兵庫県からの委託事業となった。県の条件に合わない（対象の週数など）が、追い詰められている妊産婦に対しては民間の力で命を守っている。

2024 年には特定妊産婦の事業が法定化される運びになっているが、厚労省では兵庫県が先導する形で準備がされているとのこと。私共はこの働きがさらに充実した、また優しい制度になるように、今年度計画している事業が、法定事業に組み込まれるようにさらに実績を積み上げていきたいと考えている。

2023 年度事業計画

支援体制の充実・強化に向けて以下のとおり実施していく

1. 相談支援・生活支援体制の強化・充実
2. 兵庫県下の高等学校での性教育の実施
3. 実家のない妊産婦に実家がわりとなる妊産婦ホストファミリーの仕組みづくり
4. 相談を待つだけではなく繁華街にでて行って女の子たちの居場所を作るアウトリーチの働き
5. 5 周年記念公演の開催

1. 相談支援・生活支援体制の強化・充実

現在、職員は相談支援員 8 名、母子支援員 3 名、生活支援員 4 名、事務員 4 名の体制となり、ボランティアも 50 名ほどの方が登録・活動している。24 時間の相談支援から同行支援、生活支援、自立支援と多岐にわたっての活動となり、対象となる妊産婦さんの支援期間も産後 1 年までと長期にわたるため、職員やボランティアのさらなる充実を図り、事業も拡大していくことができたらと考えている。また質の向上のために、昨年度は産婦人科医である竹内先生を招いての研修や、カウンセリング研修を実施し、医療・心理・精神面でのスキルアップを充実させてきた。今年度はさらにスタッフのス

テップアップのための研修を充実させていきたい。

また体制の充実を図ることで、よりきめ細やかな支援につながっていくため、生活支援や簡易な事務作業、広報活動を担ってもらえるボランティアの育成にも引き続き取り組みながら、職員・ボランティアの育成・強化を図っていきたい。

2. 兵庫県下の高等学校での性教育の実施

昨年度よりマナ助産院を拠点に 2000 年から性教育グループとして活動してきた「いのち語り隊」を引き継ぎ、性教育活動に力を入れてきた。だがいのち語り隊への講演依頼の多くは、小学校や中学校が多く、相談を受ける中で、間違いや偏った性の知識が社会に蔓延していることを痛感し、まさに今悩んでいる世代に向けての性教育の必要性を感じている。

性に向き合うことは、からだやこころ、そして人生に向き合う事にもつながり、自分自身や身近な人たちとの関係を見つめなおすきっかけにもなる。自立を目の前にして歩んでいる高校生を対象に、小さいのちのドアの事業を通して見えてきた社会の課題や状況を見つめながら、自他のいのちと性を大切に生きていく生き方を伝える性教育を発信していきたい。

3. 実家のない妊産婦に実家がわりとなる妊産婦ホストファミリーの仕組みづくり

居場所のない妊産婦に HOME をというコンセプトにマタニティホーム Musubi を開設したが、マタニティホームでの生活は時間が限られており、多くの時間を過ごす地域の中にも温かい場所を作る必要性を感じてきた。これまでかかわってきた女性の多くは、実家との関係が不和であったり、音信不通であったり、非虐待歴があったりと、実家は戻れる場所ではない女性ばかりであった。だが人は、帰る場所があるからこそ、外に向かっていくことができるため、私だけの居場所、私だけの家が地域の中にあることは、親子にとって大きな力となっていくと考え、実家代わりとなる妊産婦ホストファミリーを地域の中に増やしていくことができたかと考えている。昨年度中に研修をスタートさせることができたが、今年度は実際に運用ができるように体制を整え、実際にマッチングをして、妊産婦ホストファミリー支援を開始していきたい。

4. 相談を待つだけでなく繁華街にでて行って女の子たちの居場所を作るアウトリーチの働き

新生児遺棄事件の加害女性の状況や、これまでかかわった女性たちの中には、家に帰れない、夜の街を彷徨う若年女性たちがいることがわかっている。夜の街をさ迷う女性たちの背景には成育歴の中での傷つきや人間関係での傷つきなど、様々な背景を持っており、複雑に絡み合った課題は簡単には解決することができず、家庭に安全安心を求めることができないために、行き場を失い、街を彷徨っている。そんな中で性犯罪等に

巻き込まれてしまうケースもあり、予期せぬ妊娠などに繋がりにくい若年女性たちからの相談も少なくない。社会の中で安全安心な居場所を提供することは、予期せぬ妊娠の予防とともに、関係機関等と連携しながら複雑な課題を解決していく糸口を見つけていく事が期待される。昨年度は三宮の hanazono café で 3 回の居場所カフェの開催をすることができたが、今年度は定期開催できるように体制を整え、三宮だけではなく、尼崎など他の繁華街でのヘルプカードの配布や、Musubi cafe の開催など、より相談しやすい窓口づくりに努めていく。

5. 5 周年記念公演の開催

今年 9 月で小さないのちのドアを開設して 5 年の節目を迎えるため、これまでの活動の軌跡やこれからの展望など社会に発信する機会を設ける。ゲストにいのちの電話などの活動や音楽活動を行っているナイト de ライトや、1 周年の際に講演いただいた水谷修氏などに声をかけ、5 周年記念公演を今秋行いたいと考えている。

2023 年度事業計画

事業名	事業内容
会議の開催予定	
総会	1 回（6 月頃）
理事会	年 4 回
運営委員会	月 1 回
連携会議	年 2 回（6 月、3 月頃）
小さいのちのドア支援事業	
相談支援事業	思いがけない妊娠やもう育てられないと追い詰められた女性のための相談支援を継続する。24 時間 365 日電話や来所、メール、SNS などあらゆる方法でいつでも相談することが出来る。2023 年度も引き続き兵庫県・神戸市の妊娠 SOS としての相談事業も実施していく。
同行支援	ドアに相談に来られた方の病院受診や行政窓口、関連団体への同行支援を行い、必要な支援につなげていく。妊娠から出産、産後に至るまで女性と小さいのちが前向きに歩める一歩を踏み出せるまでサポートを行う。
妊娠出産支援	妊婦健診や出産の支援と、準備クラスなどを開催し、産前産後安全に安心して過ごしていけるように支援を行う。費用面での支援が必要な場合は、兵庫県の事業もしくは小さいのちのドアから支援を行い、安心して出産できるように経済面でも整えていく。
来所支援	小さいのちのドアに来所するハードルを少しでも下げられるように、必要な方には来所時の交通費支援を行う。
生活支援	マタニティホーム Musubi を運営し、行き場を失い、頼ることのできない妊産婦のために、産前産後の期間、安全で安心できる温かい場の提供を行う。 昨年度より兵庫県の特定妊婦等居場所確保・自立支援事業を受託していることもあり、産後 1 年程度までの支援を継続し、自立支援計画の策定を各関係機関と連携しながら、実施し、自立に向けた個々のステップを踏みながらできる支援のかたちを強化していく。
自立支援	小さいのちのドアにつながった妊産婦が、幸せにこれから生きていくためにも、自立できる環境づくりを支援していく必要がある。就学や就労支援を、シングルマザーを応援している企業や団体と連携しながら、自立を目指してい

	<p>く。</p> <p>昨年度からは県の事業となったこともあり、社会福祉法人経営者協議会との連携を図ることができ、その他の企業や団体との繋がりも拡大している。より社会で自立まで支える仕組みづくりがなされるように、より一層の連携強化を図りたい。</p>
妊産婦ホームステイ	<p>関わる妊産婦の多くは家族との関係不和、機能不全の中で帰る場所のない方が多い傾向があるため、マタニティホームが一つの帰る場所になればと活動してきたが、社会の中に第二の我が家が作られ、社会全体で支える仕組みづくりができたらと思い、妊産婦ホストファミリー支援を始め、いつでも帰れる我が家を社会の中に創っていく。</p> <p>妊娠中にホストファミリーとマッチングさせ、交流を図りながら、産後マタニティホームからホームステイ先として利用もしくはステップハウス等に移った際に、週末ホームステイを利用する。期間は産後1年までを想定しているが、運用しながら、支援のかたちも検討していく。</p> <p>妊産婦ホームステイ創設にあたり、ホストファミリーの研修体制を整え、募集も継続していく。</p>
アウトリーチ	<p>居場所カフェを三宮や尼崎、姫路など兵庫県下の主要都市部で開催し、行き場を失い、夜の街をさ迷う女性たちの支援を定期的に行っていく。</p> <p>1～2か月に1回程度を予定。</p>
性教育	<p>コロナ禍で制限がここ数年あった中で、今年度は制限も緩和されることが予想されるため、いのち語り隊の働きを充実させていきたい。</p> <p>またまさに悩む世代である高校生への性教育の充実を図るため、昨年度に引き続きモデル事業として高校生への性教育の実施を進めていく。</p>
里親・縁組相談支援	<p>里親制度、特別養子縁組への理解と支援の輪が広がるように、啓発を行いつつ、興味のある方や希望者を中心に、勉強会を実施。必要時、特別養子縁組団体や里親支援団体につないでいく。</p>
スタッフ研修会	<p>小さいのちのドアのスタッフや希望者に向けて、定期的なステップアップ研修や養成研修を実施し、質の高いケアが実施ができるようにスキルアップを目指していく。</p>

ボランティア研修	生活支援の中で、ボランティアとして活動に参加希望者向けに研修を実施し、ボランティア登録を行う。
セミナー	小さいいのちのドアの活動や緊急下の妊婦支援などに興味関心のある方を対象に、いのちのセミナーを定期的実施していく。
積極的周知・広報活動	支援の必要な女性が支援につながるできるように、SNS やメディアなど積極的に活用していく。 また産婦人科などへのポスター設置の協力とヘルプカードの設置を 24 時間開いている場所やネットカフェ、ファミリーレストラン等設置できる場所を増やしていく。
5 周年記念公演	5 年の節目にゲストをお呼びしての講演とともに、小さいいのちのドアの活動報告を実施する。